

知床連山ニッ池のルート変更に関する懇談会
議事概要

発言者	要 旨
環境省 野川自然保護官	<p>本日は知床連山ニッ池のルート変更についてご議論いただくため、皆様にお集まりいただいた。林野庁と環境省で調査を実施してきており、今後、ルートの変更を考えている。その内容を皆様と確認し、ルートの変更につなげていきたいと考えている。</p> <p>ニッ池のルートは、非常に脆弱な植生上に登山道があり、複線化により希少種が失われることが懸念されている。これを改善するために、ルート変更を提案する。</p> <p>忌憚のない意見をいただきながら、決定していきたい。</p>
環境省 三宅自然保護官	<p>資料 1-1 を説明 現状と課題、利用者の状況、これまでの検討経緯について 資料 1-2 を説明 ルートの変更案について 資料 1-3 を説明 各ルートでの植生調査の結果と資料 1-2 のルートになった経緯について</p>
環境省 野川自然保護官	<p>新規ルートは、今ある課題を回避することを目的として設定している。また、長期的・安定的に利用できるルートを現地踏査等により検討してきた。ルート変更について皆様と確認をとればと考えている。</p> <p>その他、テントサイトの課題、登山道の課題等はこの後の資料 1-4、1-5 で議論していきたい。</p> <p>なるべく色々と配慮できるように進めてきたいので、ご意見をいただきたい。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>土砂流入についても考慮して、たとえば土砂流入を防ぐために石積みする等の方法も考えられないか。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>ここ 1～2 年で複線化が進んでいるので、緊急的な対策も含めてすぐできれば、とも思っている。他の案もあればそれも考えたい。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>伐開に関しては、あまり良くないイメージをもたれてしまう可能性もあり、きちんとした検討が必要になってくると思う。伐開ありきで話を進めたのではないことをもっと明確に示す必要がある。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>了解した。</p> <p>それでは、残りの調査の結果も説明させていただいてから、最終的にどうするかという議論をしたい。</p>

環境省 三宅自然保護官	資料 1-4 を説明 土砂流入箇所現状と対策案について 資料 1-5 を説明 ニッ池における今後の植生保全対策について
環境省 野川自然保護官	以上を踏まえ、ニッ池では総合的にどのような対策を取るかという点についてご意見をいただきたい。
斜里町 岡田課長	今日のこの会議で決定しなければいけない事について整理してほしい。
環境省 野川自然保護官	本日結論を出したい事項は、ルート変更についてだが、判断をするためにニッ池の全体的な状況も考慮しながら意見交換をしたい。
知床ガイド協議会 滝澤氏	基本的なデータとして、利用者数や国有林の入山者数等のデータがあると思うが、他にデータはないのか。
環境省 野川自然保護官	総利用者数はカウンターの数、キャンプサイトの利用者数は入林簿のデータとなっている。
知床ガイド協議会 滝澤氏	利用者数は世界遺産登録の直前にかけこみ的に増えている。ニッ池の利用者数もその年に増えたので、登山道の複線化等が一気に進んだというのが現状だと思う。その後、利用者数が減ったため、世界遺産登録以前と比較したい。 また、一時的に硫黄山登山口が閉鎖していたため、往復利用となりニッ池の利用者が増えたということは想定されないか。
環境省 野川自然保護官	世界遺産登録以前の数字は当方でも所有していない。入林簿も古いものは破棄してしまう。 硫黄山登山口が閉鎖・再開による利用者数の変化は明確には言えないが、少なくともここ 1～2 年で複線化がさらに進み、踏み分けが 1 本増えている。
知床ガイド協議会 滝澤氏	登山道の荒廃の理由の一つにストックの利用が当たり前になったことが関係するのではないかと。ストック利用の影響が、降雨によって顕著になり、湿原へのダメージが進むのではないかと。複線化はストック利用が始まってから一気に進んでいるとも考えられる。 また、以前であれば、知床連山を縦走する＝上級者という考え方があったが、ツアー登山やガイド付き登山なども含めて上級者以外も増えてきたことや、装備が軽量化されてきているため、脇へ踏み込みやすいという事も複線化の原因ではないか。 検討は難しいが、原因があつてそれに対処するというような提案も必要ではないか。現状で、利用者が増えていないのに、植生が悪化しているというのは納得がいかない状態ではある。登山スタイルの変化を原因

	<p>として想定しておく必要もあるのではないかな。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>なお、土砂の流入箇所についても元々崩れかけていたところを、ストックの利用が増加したことによりさらに悪化したと考えている。</p> <p>また、二ッ池の周辺の泥濘化が進んでいるのは、歩く箇所を厳密に決めてしまった為に石の上をたどって歩けなくなってしまったという要素もあるのではないかなと思う。ロープを張ったことで、むしろ泥濘化が進んだのではないかな。ちなみに、今年トイレ道にロープを張ったため、フードロッカー周辺でトイレをする利用者が増えている。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>「知床スタイル」のようなものを作って、それを周知し、守れない者は登れないという仕組みとしてしまうのは考えられる。</p> <p>例えば、羅臼湖の遊歩道は、以前から「羅臼湖は長靴の道」ということをPRし、だいぶ浸透したと感じている。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>二ッ池周辺や湿原域へ行く人には、ストックが原因となっているのではないかなという仮定もきちんと説明し、確実なキャップ装着を周知した方が良くと思う。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>ルート変更がハード整備としての対応であり、周知というのはソフト対策になるが、徹底させるにはどうするかが問題である。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>今回、ルート変更するのに伐開することになっているが、現状のルートを今後どうしていくのか。ルート変更した後は閉鎖するだけで何も手を入れないのか、何らかの手を加えるのか。</p> <p>人が歩かなくなっても自然には回復しないと思うが、何らかの手を加えた方がいいのか、それともしばらく状況を見守るのか。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>植生に関しては、人が入らなければ少なくとも土壌が残っているところは回復するのではないかな。</p>
<p>知床博物館 内田学芸員</p>	<p>複線化し、水路化した箇所は、恐らく、放置しておいては回復しないのでは。完全に水路化すると水量が多くなり、滝のように下流側に流れが引っ張られる。こうした場合、川と同様に流路が固定され、回復しないと思う。</p> <p>対策としては、水の流れをどう制御するかが問題となるが、目標をいつの時点にするのかがまず重要。何かしらの対策をするのであれば、水の動きを制御する必要がある。例えば伐採したハイマツを埋めるなどはできないかな。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>正直、水路になってしまっているところは戻らないのではないかな。</p> <p>仮に伐採したハイマツ等をもってきて、水路部に埋めたとしても、供給される土砂があるのか等、さまざまな面を考慮する必要がある。やはり、最初は状況を見ていく必要があると思う。</p>

	<p>一方、新しく人を踏み込ませない事が重要なので、ルート変更した時に、入口出口になる部分には通行止め対策をする必要がある。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>たとえば石組や木道等で現状のルートについて植生の回復と歩道維持の両方を実現するのはやはり難しい。</p> <p>新しくルートを付け替えた方が全体のダメージも少ないのではと考えている。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>新しく作るルートの一番の問題点は、天の池がまったく楽しめないというところにある。雪渓を歩くことができ、水辺でありさらにお花畑もあるので魅力が高い。</p> <p>もう少し三角形の雪田の近くに出られないだろうか。この手前にも貴重な植生があるのもわかっているので無理には言わないが。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>ご指摘の箇所での現地確認も行った。雪田の近くにルートを通した場合、例えば、天の池を見るために歩きやすい雪田の上を歩いてしまうのではないかといった点を懸念している。</p>
知床ガイド協議会 石田氏	<p>池がまったく見えない、という事はないか。</p>
環境省 三宅自然保護官	<p>ルートを変更してみないとわからないが、遠目からであれば見えるのではないか。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>将来的にキャンプサイトの移設も検討予定だと思うが、現状で新ルートの出入り口をキャンプサイトの隅にしてしまうと、事実上キャンプサイトが縮小してしまうので、その対策をどうするのか。</p> <p>それから、ハイマツを伐採する際の幅はどれくらいなのか。残雪期にハイマツが倒れてしまったらルートがわからなくなる。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>伐開は1m幅を予定している。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>残雪期はルートがとれなくなるのではないか。</p>
知床ガイド協議会 石田氏	<p>多い年は分からないが、今年6月くらいだったら、この新しいルートは全部出ていたと思う。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>今は雪が残っていても自然に通れるルートを使用している。ただし、現状でも南岳分岐へ通じる箇所はわかりづらい。</p> <p>新しいルートというのは、雪のある時期には分かりづらいだろう。</p> <p>例えば、キャンプサイトでルートを明示するという方法はあると思う。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>いくつか提起があった。魅力が減る、残雪期のルートがわかりづらくなる、キャンプサイトの縮小や将来的に荒れる等の可能性を指摘され</p>

	<p>た。</p> <p>魅力が減るという可能性については、長く使うためなので承願したい。お花畑については知床連山の他の箇所でも楽しむことが可能である。</p>
環境省 三宅自然保護官	<p>植生の保全という面もあるが、利用者にとっても融雪期に現道を通することは、靴が浸水するため大変なストレスとなる。現道を歩いてもらうという事自体に無理があると思う。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>雪田植生の方にルートを出すという案もあるが、傾斜がついている場所なので、浸食した場合に流れ込んでしまう可能性があり、より安全なルートを選定した。基本的には尾根となる安定した高い箇所を通過している。</p> <p>ただし、小さい水路のような箇所を何箇所か通過するため、ルート選定を工夫する、石や倒木を活用する等の対策をしていきたい。</p>
羅臼山岳会 佐々木会長	<p>これは、ニッ池だけの問題ではなくて、登山道全体の問題としなければならない。たとえば登山道が水路化し、さらに土砂が下に溜まっている場所はここだけではない。</p> <p>ただし、水の中を歩くような現状を考慮しても、ニッ池のルートを植生に影響のない方向で付替えることは、問題ないと思っている。</p> <p>ただ、ハードの部分で知床連山全体を見た場合に、どこまで整備していくのか。整備水準をきちんと見極める必要がある。利用が続けば、今後、必ず水路化する箇所が例えば三ッ峰など、何箇所かあるだろう。</p>
環境省 三宅自然保護官	<p>縦走路全体をどうするかという問題は当然あるが、整備するか、しないかという点も未定であり、整備主体も未定である。</p> <p>環境省としては、ウトロ側の羅臼岳登山道の整備に 5 年かかる予定であり、すぐに知床連山にまで着手するのは難しい。</p> <p>5 年後に全体を通じて検討した際にあわせてニッ池の対策を取る場合、それまでにかかなり複線化が進んでしまうことが想定されるため、ニッ池のみ緊急的に対策を講じたいと考えている。</p> <p>連山全体についても皆様にご協力いただきつつ並行して検討し、土嚢やロープの設置等、すぐに可能な対策は実施していきたい。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>キャンプサイトについても、ニッ池に泊まらせないという方法もあり、全体的な利用者数を調整する方法もある。どういう選択肢をとるかはこれから考えるべき事であり、様々な選択肢の中でどのような対策をするかという議論を今後できればと考えている。</p> <p>個人的には、全体をしっかりと整備する必要はないが、ニッ池のように、少ない人数の踏圧でも荒廃してしまうような場所であれば、早急に</p>

	手を打つ必要があると考えている。
羅臼山岳会 佐々木会長	提案のあった付替えルートが最善であれば、残雪期にルートが不明瞭となるという問題については解決策があるだろう。羅臼岳の羅臼側では、7月の後半から8月の半ばまで1週間ごとに鉄ピンを打ってルートを明示している。手法としてはいろいろあるので、提案のあったルートが一番植生への影響が少ないものなのであれば、このルートで良いのでは。様々な問題はあると思うが、ニッ池をまず先行して対策を行い、他の地点に関しては、先行の事例を活かすことを考えた方がいいと思う。
斜里山岳会 遠山会長	斜里山岳会としては、さきほど滝澤氏から出た意見や要望も含めてトータル的にはこの区間のルート変更をやらざるを得ない状況にあると認識している。知床の植生保全、登山道のこれ以上の荒廃を防止するという事を考えればやむを得ないと思う。
知床ガイド協議会 石田氏	伐開幅は1mとのことだが、1m以内に入るハイマツは根から伐採するのか？それとも枝を払うイメージか？
林野庁 梶岡調整官	伐開にかかるハイマツについては、既に調査をしてくれている。基本的には枝を払うイメージだが、多少広がる可能性はある。
環境省 三宅自然保護官	歩行者の安全面も考慮し、切り口を歩道から離れたため、支障のないものについては多少根元の近くで切るだろう。
知床ガイド協議会 滝澤氏	ハイマツを伐採する際、枝を上から切るのではなく、下から切った方がよい。上から切ると枝が立ち上がるため歩きにくくなるし、切り口が鋭利となりやすい。
斜里山岳会 遠山会長	展望はどうなるだろうか。
環境省 野川自然保護官	ルートの途中にハイマツの樹高が高い箇所もあるが、天の池側にはあまり高くない箇所もあり、展望を楽しみながら歩いていただけたらと思う。 ルートの変更に関しては、植生の保全を最優先とするということで、ご了解いただけるか？
一同	特に異議等なし。
環境省 野川自然保護官	それでは次に、資料1-4と1-5のキャンプサイト、フードロッカーについてご意見をいただきたい。 資料に無い課題としてトイレがある。今後は先ほどの滝澤氏のご意見を踏まえ、検討していきたいと思う。 これらについては、本日結論を求めるものではない。今後とも継続して皆様と協議していきたい。

<p>知床ガイド協議会 石田氏</p>	<p>野営について、今年のお盆は、去年と比較して相当利用者が増加した。三ッ峰と第一火口で野営したが、8月14日は三ッ峰に13張ほどテントが張られており、三ッ峰でここまで利用者が多いのは私は初めてであった。二ッ池で野営するという利用者も多数いたため、相当な利用者数だったと思う。</p> <p>特にお盆時期や7月の3連休は、このような状態が続くのであれば、届け出制や事前予約制にする等も検討した方がいいのではないかと感じる。</p> <p>また、最近の傾向として、装備の軽量化により同じパーティーでも個人個人が別々にテントを張る。登山スタイルの変化だと思うが、これも考慮する必要がある。</p> <p>三ッ峰でも6人組で5張のテントを張っていた。たとえば、知床連山はキャンプサイトが狭いので、できるだけパーティーで同じテントを使用するようにと周知してはどうか。</p>
<p>斜里町 高橋係長</p>	<p>現在は各キャンプサイトの収容力はどのくらいか、という目安は情報発信されていないのか？</p>
<p>知床ガイド協議会 石田氏</p>	<p>していない。</p>
<p>林野庁 梶岡調整官</p>	<p>大雪山では収容力に応じて予約制度とする、収容力がいっぱいになったら野営を禁止するといった対策も取られている。</p>
<p>知床ガイド協議会 石田氏</p>	<p>目安として何人程度の利用者が野営する予定だといった情報を発信できれば、それに応じて、例えば行程を2泊にする等、利用者が選択できる。</p> <p>近年の基本的な縦走のスタイルはほとんどが1泊2日であり、大多数は二ッ池で野営するが、少しスタートが遅れた場合は三ッ峰に張る。だから第一火口はほとんど利用者がいない。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>二ッ池のキャンプサイトを閉鎖した場合、三ッ峰や第一火口の利用者が増えることが想定されるか？</p>
<p>知床ガイド協議会 石田氏</p>	<p>三ッ峰は利用者が増加し、収容力をオーバーするだろう。第一火口は現状と変化ないだろう。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>二ッ池を閉鎖するのであれば、硫黄平のコースを復活して欲しい、という要望があがる可能性がある。遭難騒ぎが数回あったため、平成になってから廃道としたルートである。</p>
<p>羅臼山岳会 佐々木会長</p>	<p>硫黄平コースは木が相当あって、火口の中で迷ってしまう。そのため遭難騒ぎが何回も起きて閉鎖してしまった。</p> <p>ルートをしっかり整備するのであれば、利用者は増えるだろう。</p>

知床ガイド協議会 滝澤氏	ガイドなど従来からのルート分かっている者であれば使用しても問題が生じないため、硫黄山登山口が使えなかった 5 年間は硫黄平コースを使用していた。1泊2日で硫黄山を往復して、また岩尾別登山口に戻ってくるのが可能である。
斜里山岳会 遠山会長	公園計画上では、ニッ池のキャンプサイトは野営地の指定になっているのか？ 法的な利用コントロールの手法として、利用調整地区も考えられるのではないか？
環境省 野川自然保護官	他のキャンプサイトも含め、公園計画上は野営地として指定していない。 法的な規制として、当然利用調整地区は選択肢の一つであるが、その他、エコツーリズム推進法に基づく立ち入り数の上限の設定、キャンプサイトの収容力に応じた届け出制、入林の際の立ち入り規制等が想定される。 また、事業執行者であれば供用期間を決定できる。環境省で今回岩尾別登山道の整備を行っているが、同時に歩道管理者となる。管理者の法的な権限として、例えば開山日、閉山日の設定が可能となり、ぬかるみのひどい時期には一般登山者を制限することも可能となる。 選択肢はいろいろとあるので、地域の皆様と合意形成を図り手法を決めたい。
斜里山岳会 遠山会長	以前から国有林の管理者は明確に林野庁であるのに対し、登山道の管理者は不明瞭であった。
環境省 野川自然保護官	少なくとも、羅臼岳の岩尾別登山道の管理者は環境省となる。実際には林野庁と協定を結んで維持管理は共同で実施することとなる。
羅臼山岳会 佐々木会長	硫黄山や、羅臼岳の湯ノ沢のコースは林野庁が管理者なのか？
環境省 三宅自然保護官	湯ノ沢コースの第一の壁の少し先までは、根釧東部森林管理署が管理している。
林野庁 梶岡調整官	当方では登山道ではなく、歩道という形で扱っている。 今回のニッ池についても、きちんと調査がされ、対策が検討されているものだから、環境省と共同で取り組んでおり、現地調査も同行しているが、取り扱いは非常に難しい。
羅臼山岳会 佐々木会長	岩尾別コースについては入山届も含めて環境省で対応しているのか。
林野庁 梶岡調整官	入林届については林野庁で対応している。

<p>羅臼山岳会 佐々木会長</p>	<p>二ッ池や知床連山の登山利用について、法的な制度や自主ルール等により規制可能であるということは理解した。</p> <p>例えばインターネットでキャンプサイトの混雑状況等が調べられれば、混雑しているサイトを外す等の対応は地元としてもできるだろう。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>システムや規制の導入は可能であるが、どう管理していくかという課題はある。</p> <p>ただし、現状としては混雑する時期はある程度限定されるため、環境省のスタッフで巡視を行い、コントロールに役立てていくことは可能であると思う。届出を提出していない者に、現場で他に移動するよう指導することは難しいかもしれないが。</p> <p>必要なのは周知であり、地域としてどうやって発信していくかというのが重要である。ツアー登山についてはある程度周知は容易だが、個人の利用者への周知をどうするか。</p>
<p>知床ガイド協議会 石田氏</p>	<p>3日程度の日程として連山を登山してほしいという周知も必要。ギリギリ1泊2日、次の日に飛行機に乗るといった日程の利用者も多いが、連山では天候等の条件が厳しく1泊2日では縦走が不可能という場合もあるといった周知もしてほしい。</p>
<p>羅臼山岳会 佐々木会長</p>	<p>利用のピークは年2回程度だから、その時の調整をすればいい。それほど難しくないので。</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>まずは収容力に限界があるという点から周知していけば良いと考える。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>「この時期は非常に混雑します」「このキャンプサイトはこの程度の収容力です」といった周知が必要。そのためには、環境省職員の巡視データを活用する必要がある。</p>
<p>斜里山岳会 遠山会長</p>	<p>資料の中の昨年の部分については、建設管理部のデータは入っているのか？</p>
<p>環境省 野川自然保護官</p>	<p>入っている。</p>
<p>斜里山岳会 遠山会長</p>	<p>硫黄山登山口が使用可能となったことについて、インターネット等で相当周知がなされているが、なお知らなかったという人が縦走者のなかにいる。3年や5年かかるかもしれないが、周知を続けることでそれなりの効果はあるだろう。</p>
<p>知床博物館 内田学芸員</p>	<p>ストックの問題についてだが、ストックの先にキャップをつけるというのは当たり前なのか。</p>
<p>知床ガイド協議会 滝澤氏</p>	<p>まず、販売店がストックの使い方を教えない。キャップ自体を、鉛筆やボールペンのキャップと同じようにしか認識していなくて、持ち運ぶ</p>

	<p>ときはキャップをするものだ、と考えている登山者も多い。</p> <p>本州の方の岩場を歩く時はキャップつけない。そのような人からすると、キャップをつけることに非常に違和感を覚えているようだ。「北海道の山は本州の方の山と違うから、崩れやすいのでキャップをつけてください」と説明して理解してもらおう。</p> <p>説明すればほぼつけてもらえるが、「いや、刺さっていかないと不安だ」という声が多いのも確かだ。</p>
知床博物館 内田学芸員	<p>実際ここ十数年で、相当な勢いで羅臼岳登山道も掘れており、その脇から植生が崩落している。深刻な問題だと考えている。</p> <p>これまでの検討で、たとえば入口にキャップを大量に置いて、持っていない利用者に提供する、という議論はされたことないのか？そのような対策も必要ではと考える。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>羅臼岳ではそこまで具体的な議論はない。私は、前日の食事の際にツアー参加者に配布している。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>利尻では、入口の付近で販売しているはず。ただ、メーカーが違うとストックに合わないこともある。</p> <p>ただ、登山道にかなりの数が落ちているので、集めれば色々な種類のものが集まるだろう。</p>
知床ガイド協議会 滝澤氏	<p>利尻では「利尻ルール」として、キャップの装着、携帯トイレの使用、高山植物に踏み込まないという3点を周知している。同様の対策を検討しても良いだろう。</p>
環境省 野川自然保護官	<p>様々なご議論、ご指摘をいただいた。今後の対策検討に生かしていきたい。</p> <p>最後に、羅臼岳登山道について、今年整備を予定しているので情報共有したい。</p> <p>資料 2-2 を説明 羅臼岳登山道の工事概要について</p>
知床ガイド協議会 石田氏	<p>銀冷水で休憩できなくなる日にちは？</p>
環境省 野川自然保護官	<p>現時点では9月5日～8日だが、工事の進捗により、それからさらに1週間、9月15日くらいまでは休憩できない可能性がある。</p> <p>ただし、ヘリ運搬が順調である場合を想定しているため、そうでない場合にはさらに伸びる可能性がある。</p>
知床ガイド協議会 石田氏	<p>銀冷水での休憩の可否はガイドツアーの行程に大きく影響する。事前に周知していただけないか？</p>
環境省	<p>登山口に明示するようにしたい。</p>

野川自然保護官	
知床ガイド協議会 滝澤氏	ヘリで運搬する際の時間帯は決めているのか？
環境省 野川自然保護官	1日中になると考えている。
知床ガイド協議会 滝澤氏	ワイヤーを使用して資材を降ろすだろうが、かなり低空まで来るのでダウンバーストがひどいと思う。どこからどこまで影響するのか？また、1回の運搬でどの程度の作業時間となるのか？
環境省 野川自然保護官	登山者の利用を見ながら降ろしていく、ということを考えている。施工会社には、ヘリで降ろす箇所の前後にスタッフを配置してもらい、利用者のコントロールをしつつ実施していきたい。 作業時間は往復で10～20分程度となる。よって、10～20分ごとに少し待っていただくことになる。
知床ガイド協議会 滝澤氏	工事期間、休憩の可否、利用コントロールの状況等については事前の周知をお願いしたい。
環境省 野川自然保護官	事前周知については対応したい。 登山者数に対してかけている費用が高すぎないか、という指摘もある。植生や地形の保全の為にやっているため必要であるという説明をしているが、今後、国の財政の関係もあるので、整備がどこまで出来るかはわからない。
羅臼山岳会 佐々木会長	登山道の保全や維持は、植生保全の為に実施していることだから、利用者数の大小は関係ないということか。
環境省 野川自然保護官	利用者数の大小ではなく、植生が脆弱な所に対しては、きちんと対策をとっていく必要があると考えている。